



相模原みのり塾  
(無料学習塾)

毎週日曜日の午後、相模原市JR橋本駅前のイオンショッピングセンターの上階にある公民館で『相模原みのり塾』は開かれています。取材に訪れた日は、生徒さんとボランティア講師の方々総勢40名以上が学習に取り組んでいました。(取材:桜井 薫)

代表の小布施さんが無料塾を始めたきっかけ

2011年、東日本大震災の被災地で東京の大学生が学習支援のボランティアをしているのを見て、自分でも何かできないかと考えていた小布施さんは、勉強を教えることならできるのではないかと思ったといいます。当時、子どもも小さく被災地には行けなかったが、八王子市の無料塾にボランティア講師として参加。2年半活動するうちに「地元の相模原市で子どもたちに関わりしたい」と思うようになり、様々な人や相模原市社会福祉協議会のサポートを受け準備を進めました。



左から 副代表:中村敦彦さん 副代表:山口幸大さん  
代表:小布施実穂子さん

ぶれない生徒ファースト

定例授業は科目ごとに1対1の個別指導です。生徒と講師の相性は学習効果を高めるためには重要で、相性が良くないと思った時は生徒、講師双方から申し出ることができるようになっています。



商業施設内の会場は、子どもたちが安心して通いやすい。

さらに、2023年度から体験を重視した創造学習をスタート。理科実験、プロサッカーチームやオリンピックの講演などが組まれています。ここでは、生徒同士、自分の担当以外の講師との交流も生まれ、塾としての一体感が作られています。その他には、受験対策としての夏・冬講習会、テスト前自習室。勉強以外にも多くの経験を得る機会として、塾イベント、職業紹介、卒業の会などが企画されています。

設立から9年目を迎え、卒業生の累計はおおよそ100名。ここまで継続できたのは「すべては子どもたちのしあわせにつなげる」という軸がぶれないように運営をしてきたからではないかといいます。



① 創造授業  
取材日のテーマは、「色の3原色」の理科実験

② 1対1の定例授業  
様々な話ができ、信頼関係が構築できる。



最後に

運営スタッフの方の「生徒たちが大人になった時、あの先生たちは何で毎週日曜日にボランティアしていたんだろうと思いついてもらえたら嬉しい」という言葉が印象的でした。

卒業生が講師として戻ってきているとのこと、市民の温かい思いが循環していったらいいと思いました。(さくらい かおる)

家庭の経済格差を教育格差にしない社会の実現をめざして

2016年5月、『相模原みのり塾』は経済的な理由で塾に通えない中学生を対象に学習支援を行う無料塾としてスタートしました。交通費も自腹の完全ボランティアの講師の皆さんは、かわいそうだからではなく子どもたちの「学び」を助けたい、地域の大人の責任として、未来を担う子どもたちへの投資としてという考えをもっての参加でした。

入塾条件は3つ

- 1.勉強ができるようになりたいという気持ち強いこと  
2.他の有料塾に通っていたり、家庭教師を利用したりしていないこと  
3.ご家庭が経済的に困難であること

経済的困難の明確な基準はなく、収入証明のような書類の提出は求めていません。「他の支出が多いので教育費にはかけられない」という理由と区別するため、他の有料塾に通っていないという条件が設けられています。

入塾面談では生徒のやる気の確認を大切にしているとのこと。代表自らが、生徒入塾面談で、生徒さんと目を合わせて「やる気はしっかりある?頑張りたい?」と確認をしているそうです。

相模原みのり塾 ホームページ

<https://sagamihara-minori.jimdofree.com>

相模原みのり塾活動ブログ  
<https://minorijyuku.hatenablog.com>



発行:2024年6月20日  
発行者:(特非)全員参加による地域未来創造機構(略称:未来機構)  
〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F  
Tel:045-534-7131 Fax:045-534-7151 E-mail:minnano@miraikikou.org

みんなの未来  
きこう

第9号

発行:特定非営利活動法人全員参加による地域未来創造機構  
発行責任:希代監

2024年6月30日



6/14 第2回通常総会を開催し、全議案が承認され終了しました。

未来機構設立3年目となる2024年度は、更に活動の幅とネットワークを広げ、豊かな地域づくりをめざす中間支援機能を高めていきます。

2024年度基本方針

- 1.未来機構の講座・研修、相談・支援、調査・連帯・広報の3つの機能をより力強く進めていきます。  
2.「アソシエーションが主役のまちづくり」をめざし、地域で活動するアソシエーション団体の中間支援としてプラットフォーム機能づくりを進めます。

「市民基礎講座」「地域を豊かにするための連続講座」「キャリアアップ講座」の企画実施、スタートアップ相談から、フォローアップまで一貫して行う相談支援、アソシエーション活動調査、生活クラブ運動グループ福祉事業実践のとりまとめ等の活動を引き続き行います。

また、2024年度は地域で活動するアソシエーション団体の情報共有・相互交流の「場」づくり、WEBでの交流の「場」づくりにも取り組みます。

★新理事長は希代 監さん(生活クラブ神奈川)、副理事長は児玉英憲さん(継続・福祉クラブ)が選任されました。



第2回通常総会記念講演

「市民主体のまちづくり」のすすめ方  
地域に住む人が暮らしの中で必要なことは、自分たちでつくってしまおう!

講師: 広石 拓司氏 (NPO法人全員参加による地域未来創造機構 副代表理事、ソーシャル・プロジェクト・プロデューサー)



人と人のつながりを深める「場」や「しくみ」の重要性

活動や事業を立ち上げる時、その元手で大切なのはお金(資金)以上に社会関係資本(人と人のつながり)だと広石さんは強調しました。

話を聞いてほしい人、聞く人が出会える場がまちの中にたくさんあること、関係性を深めるしくみをつくるのが重要。最初から地域のことに興味のある人はそんなにいない。ただ、人は自分の興味のあることには参加する。そこで他人との出会いがあり、思いを聞いてくれる対話や学びがあって、そこから地域へ関心をもつようになるというステップがある。

地域の多様な主体が集うコレクティブな協働を

楽しいと思う体験があり、対話から自分のできることと、自分より上手にできる人の存在にも気付き、自らのできることが役割に結び付いたときに動き出すことができる。解決策を急ぐ前に、「問い」(解決したい課題)を分かち合う、いっしょに悩める人がどれだけのいるかが社会関係資本になる。

単独では解決しえない地域の課題が生まれてきた構造から「問い」を共有し、お互いから学び合い、実践し、持続可能な地域の姿に近づけていくことが変化の「肝」。

総会后、広石拓司氏の記念講演が行われました。広石さんは、思いのある誰もが動き出すことができ、新しい活動を生み出せる社会をめざして地域・企業・行政など多様な主体の協働による社会課題解決型事業の企画・立ち上げ・担い手育成・実行支援に多数携わられてきました。

(特非)全員参加による  
地域未来創造機構  
(略称:未来機構)



〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F

TEL:045-534-7131  
FAX:045-534-7151

E-MAIL:minnano@miraikikou.org  
URL:<https://www.minnanomiraikikou.org>

# みんな・つながる・みらい

第2回地域未来フォーラム

豊かなコミュニティをつくる  
ワーカーズ・コレクティブの価値と可能性

今はないけど、地域に必要だからつくっちゃおう！

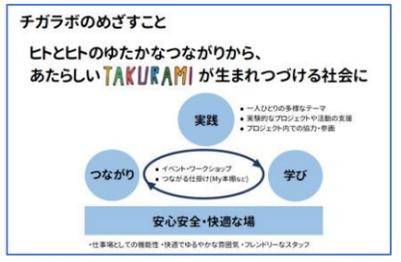
## ワーカーズ・コレクティブっておもしろい！

基調講演

講師：清水謙さん (ヒトコトデザイン株式会社代表取締役/チガラボ代表)

・・・起点となる気づきを得るまで・・・

講師の清水さんは、人材育成・組織開発のコンサルティングを経て2014年にヒトコトデザイン株式会社を設立し、2017年から地域内外のヒトのつながりから新しいコトが生まれる拠点として、コワーキングスペース「チガラボ」を立ち上げた。なぜ、コワーキングスペースを立ち上げたのか。会社員として朝早くに家を出て夜遅く帰る暮らし。ワークライフバランスという言葉だけが先行し、暮らしの場と仕事の場がひたすら遠い状況に少しずつモヤモヤが積もっていった。転機となる気づきは2つ。1つ目は、思い立って借りた地域の貸し農園での経験だ。畑に集う人は、生産農家になりたい訳ではなく、地域に何か関わりたいと思っている人が殆どだった。畑を入りに、食や農といった暮らしに近いテーマで接点があった人たちと、畑に限らず一緒にやっていける可能性に気づいた。2つめは3.11東日本大震災後の復興支援活動での経験だ。必要なものを先において、無ければ作れば良い、壊れたら直せば良い、と自分たちで作ることを当たり前に行っているリーダーの巻き込み力、そして、自分が仕事でも使っていた「地域のビジョン・価値観」といった言葉の意味の違いに気づいた。これらの気づきを経て地元茅ヶ崎の雑居ビル5Fを借りて立ち上げたのが「チガラボ」だ。

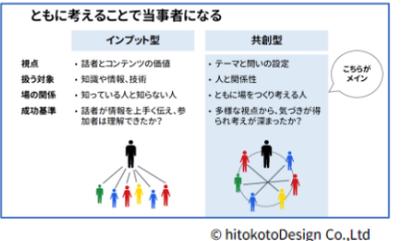


・・・個人のTAKURAMIから地域の活動・事業へ・・・

チガラボには、多様な人が豊かなつながりを得ながら新しいTAKURAMI(企画)が生まれ続ける、様々な工夫が凝らされている。コミュニティのメンバー(約80人)がそこにいなくても各人がわかるよう、本や小物で自己紹介するMy本棚といった設え然り、テーマを絞らないイベントづくりやそこへの参加を入りに、場にいる全員を主体者に引き上げ、つなげるイベントの組立てり。やりたいこと宣言&いっしょに考える会「チガラボチャレンジ」は、7年4ヶ月にわたって毎月開催され、85回・164組が登壇。ある一人の心の中にぼんやりとしかなかったやりたいこと=TAKURAMIを顕在化させ、そもそも何故やりたいのか、何を実現したいのかを大切に、聞き手も共につくる一人となって、アイデアや情報、どうしたら実現できるか、自分ならどんな協力ができそうかを出し合い、単発イベント~継続的な活動・事業へとステップアップさせてきた。そんなチガラボだが、新陳代謝も大事、と4月にはクローズして、今後はTAKURAMIをする地域のプレイヤーの場づくり(物件活用/古屋・空き家再生)を積極的に展開していくとのこと。



お話を伺う中で私のこころに残ったのは「ワークライフ・ブレンド」というキーワードだった。自分と事業と地域の3つの重なり部分が増えていく暮らし方を、よりおおぜいの人ができるようにしていくことが、地域社会や経済の真の活性化、持続可能性を高めることにつながっていくのだろう。次の展開のお話を伺える日が楽しみだ。  
(報告:野村 美湖)



フォーラム動画はこちら→  
[https://youtu.be/1yBEjdxBVNo?si=JjehAmaaiE\\_BC6hy](https://youtu.be/1yBEjdxBVNo?si=JjehAmaaiE_BC6hy)



・木野久美さん  
移動サービス「利用者の足となり、心をつなぐ」  
NPO法人ワーカーズ・コレクティブ たすけっと(座間市)

「たすけっと」の名前の由来は、年をとっても体が不自由になっても心豊かに自分らしく暮らし続けていきたい。そんな思いのこなる安心して過ごせるまちをつくるためお互いに助け合っていくという願いが込められています。



「たすけっと」との出会いは、2004年子育て中の時。生活クラブと一緒に活動していた知り合いからその活動内容を聞いて、女性が自分たちで事業を立ち上げるなんてすごい!と憧れのような気持ちを抱いていました。その知り合いから電話番号だけでもいいから手伝ってくれないかと声をかけられ、社会から離れたような気持ちでいたので、自宅にいて出来るからと言われたのがきっかけ。結局、電話番号だけでなくコーディネーターの役割もあり、ワーカー不足のため運転もするようになりました。利用者さんには、「たすけっと」は、予約で来てくれて、付き添いもしてくれ、知っているメンバーが来てくれる、買い物にも行けるなど不安なく利用できる。病院内でも細かい事まで対応してくれるなどで喜ばれています。20年継続していると近隣の包括支援センターや成年後見人から、たすけっとを利用したい方がいるという相談もあり、信頼されていると感じています。

・阿部麻夕子さん  
仕出し・弁当「美味しさ・食材・健康・環境・“共に働く”ことにこだわって」  
企業組合ワーカーズ・コレクティブ  
ミズ・キャロット六角橋(横浜市)

1983年日本初のワーカーズ・コレクティブ「にんじん」としてスタートし、以来横浜市内で仕出し・弁当事業を中心に開業。1995年企業組合W.Coミズ・キャロットを設立しました。(現在すすき野、港北、六角橋、みなみランチがある)六角橋ランチは、1990年女性8人で神奈川区六角橋で開業、34年の歴史のあるワーカーズです。



30年ほど前、当時子どもたちにお金が掛かるので掛け持ちパートをしていました。生活クラブを紹介してくれたママ友からお弁当を作って配達しているから一緒にやらないかと誘われました。ワーカーズコレクティブ、出資金、協同経営?聞かない言葉ばかり。しかしお互い様の考え方、パートタイマーの働き方に疑問を持っていたので、儲け分を分配するという発想はすごいと思いました。雇われない働き方にもワクワクしました。ワーカーズコレクティブは、みんなで意見を出し合い話し合い決めていく。スムーズな話し合いだけではなく、十人十色それぞれの想いがあるのでうまくまとめるのが難しいです。多数決で決めたとしても少数意見が違うわけではないと確認し合います。人間味のある職場で毎日楽しく働いています。これからも前を向いて次なる挑戦を掲げています。事業継続に励みたいと働き方を確認し合い、経営の面白さ、活動を楽しく皆さんで共有していきたいと思っています。

・竹内あき子さん  
子育て支援「“あったらいいな”をカタチにー地域のホットスペースたんぼぼはうす」  
NPO法人ワコレたんぼぼひろば(茅ヶ崎市)

たんぼぼひろばは2003年に子育て事業からスタートしました。その後、築50年以上の古民家を活用し地域の居場所ホットスペースたんぼぼはうすを立ち上げました。そこでは、



・月曜~金曜一時預かり保育事業  
・週2回放課後の居場所  
・不登校の保護者のお茶会  
・週2回のフリースペース  
・ママたちの井戸端会議「ママカフェ」  
・子ども服のリユース会  
・お部屋貸し  
などの活動を展開しています。  
私は、W.Coということを知らないで加入しましたが、フラットな関係でやりたいことにチャレンジでき、個人の事情に応じて働けるワーカーズの働き方が自分に合っていると思います。半面、「やりがい」に頼りすぎている部分があったり、平等であるとはいえ、仕事での責任の差が大きいなど課題も抱えています。  
地域の中で親も子どもも安心していられる「場」、人の気持ちに寄り添い一人ひとりをありのままに受け入れてあげられる「場」の必要性を感じています。疲れた時や困った時に助けしてほしいと声を上げることができる、あげてもいいんだよと言ってあげられる環境づくりを考え、お互いを思いやる社会を地域の人と一緒に作り上げていくことが必要だと思っています。  
子どもも大人も、関わる全ての人が楽しいと感じられ、安心できる「場」、訪れる人たちとの会話の中で、必要と感ずるものを今後も共に作り上げていきたいと思っています。



清水さんの「トークセッションまとめ」  
※ 暮らしている地域で社会とのつながりを重視して働くことにより、豊かな地域づくりを実現できるのではないかと。※  
仕事とは、能力とか経験を換金していくことかと思うがそこに社会性が入るとどうなるのか?つまり自分の仕事の中に社会的視点が入ると自分の生き方にも反映されてくる。暮らしと仕事混ざり合って一体化していくと仕事なのか遊びなのか区別がつかなくなる感覚になる。  
W.Coは、日常生活に近い目線の仕事をしているので自分の暮らす地域と社会で起きていることと仕事重なるのではないかと。地域にさらに開いていくことによって周りとの関わりもしやすくなる。そうなることで横の連携、つながりができ地域のいろんな人がW.Coという働き方に参加し、豊かな地域づくりを実現できるのではないかと。 (報告:矢野克子)

\* W.Co=ワーカーズ・コレクティブの略。働く人達が出資し、働き、経営も担う協同労働組織